

第17期 中間報告書

平成30年1月1日から平成30年6月30日まで

TOABO

株式会社トーア紡コーポレーション



Top Message

ごあいさつ

100周年に向かうトア紡グループ。

「アメニティ＝快適」という価値を未来に、暮らしに届けるため商品・研究開発を5つの事業分野で展開し、TOABOブランドのさらなる飛躍を目指します。

第17期の業績について

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループ第17期第2四半期連結累計期間（平成30年1月1日から平成30年6月30日まで）の事業概要を次のとおりご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に個人消費においても持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復基調で推移しております。一方、米国の保護主義的な貿易政策により米中の貿易摩擦が拡大し、世界経済に影響を及ぼす懸念が高まっております。

このような状況のもと、当社グループは市場ニーズを先取りする高付加価値・高品質商品を提供する「暮らしと社会の明日を紡ぐ企業」として、競争力の強化と収益性の向上に取り組んでまいりました。しかしながら、エネルギー費や原材料価格の高騰に加え、物流費などの経費増により厳しい状況が続きました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,569百万円（前年同期比0.8%減）、営業利益は215百万円（前年同期比33.1%減）、経常利益は193百万円（前年同期比35.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は91百万円（前年同期比54.9%減）となりました。

今後の方針

当社グループでは、5つの事業を中心として、グループ全体のさらなる事業価値の向上を最大の経営課題と位置付け、中期的な経営戦略に基づいて、各事業分野において、以下の取り組みを進めてまいります。

衣料事業

学生数や労働人口が減少する中、衣料品に携わるメーカーとして、学生服では快適な衣服内環境の開発で新たな需要を掘り起こし、日本国内の生産基盤を維持します。また、テキスタイル分野では中国・ベトナムでの生産・販売を強化することで、競争力のある事業を構築していくとともに、環境に負荷をかけない安心安全な加工技術の開発を通じ、事業の継続的発展を進めます。

インテリア産業資材事業

自動車内装材部門では、国内は徹底した生産の効率化と経費の削減で、収益の改善を目指します。中国では、今後の新規受注を見込み、設備を増設し生産力の強化を図ります。また、カーペット部門・不織布部門・ファイバー部門では、工場生産の安定化を図るとともに新規商材の開発、新規分野の開拓に努めます。製造部門では、競争力のある商品づくりを目指し、生産性の向上と新規分野開拓のための設備投資を進めます。

エレクトロニクス事業

既存製品については、中国生産工場での品質と工程管理強化を図り、東南アジアへの輸出拠点の体制を確立いたします。また、成長産業であるロボット分野への基幹部品の販売に着手いたします。

ファインケミカル事業

今後の成長が見込まれるIT・情報電子材料分野での事業拡大を図るとともに、昨年より製造を開始したヘルスケア分野の化粧品用途材料、並びに将来可能性を持つ新規材料の規模拡大の機会をとらえ、投資も含め事業拡大に努めます。

不動産事業

商業施設は投資により資産価値を高め、事務所賃貸については稼働率の向上に努めます。

これらの取り組みとともに、「企業の果たす社会的責任」の一環として、「人」・「暮らし」・「環境」の心地よい調和を求めてまいります。

また、法令遵守や危機管理を一層徹底するため、「トア紡グループ企業行動憲章」のさらなる定着と実践を推進し、より実効性のある内部統制の整備、運用に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年8月

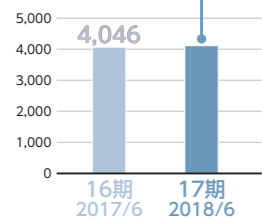
代表取締役社長 長井 渡

Segment 営業の概況

衣料事業

上半期売上高 単位:百万円

4,092百万円



売上高構成比
42.8%

衣料事業は、各種繊維を原料とする衣料用素材の製造および販売を行っております。

毛糸部門では、国内のニット用糸はほぼ前年並みに推移しましたが、織物用梳毛糸は大幅な原毛高の影響を受け販売が低調、減収となりました。中国での人民元販売糸は前年以上の売上となり、国内外合わせると増収となりました。

ユニフォーム部門では、スクール向け制服素材は入学者数減少の影響を受け、追加発注が少なく減収となりました。企業向けは新規案件の獲得と、夏向け素材が好調で増収となりました。官公庁向けも新規の案件の獲得があり増収となりました。

テキスタイル部門では、郊外量販店向けメンズ素材は前年並みの受注を確保しましたが、百貨店向けが苦戦しました。レディース素材は前年に引き続き好調で、合わせて増収となりました。

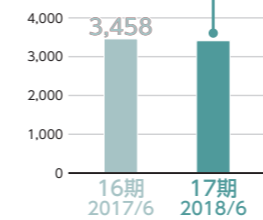
衣料事業としては増収となりましたが、非塩素防縮の技術開発費用が本年より発生したこともあり、営業利益は大幅に減少しました。

この結果、衣料事業は、売上高4,092百万円（前年同期比1.1%増）、営業損失0百万円（前年同期は営業利益71百万円）となりました。

インテリア産業 資材事業

上半期売上高 単位:百万円

3,410百万円



売上高構成比
35.6%

インテリア産業資材事業は、自動車用内装材、住宅建材・排水処理資材・土木資材・緑化資材などさまざまな用途の産業用資材、インテリア関連製品、オレフィン系短繊維の製造および販売を行っております。

ポリプロファイバー部門は、住宅建材用、展示会カーペット用、車両向け原綿が好調に推移し増収となりました。

カーペット部門は、カーマット関連、OEM、ホテル物件等堅調に推移しました。

不織布部門は、寝装用途、緑化資材・防草資材、土木関連が堅調で微増収となりました。

特殊繊維部門は、金属繊維、カーボン繊維とも安定的に推移し、前年並みとなりました。

自動車内装材部門は、主力の軽自動車、輸出SUV車向けは堅調に販売を維持しましたが、量販ハイブリッド車の販売減と前年打ち切りの軽量販車の影響で減収となりました。

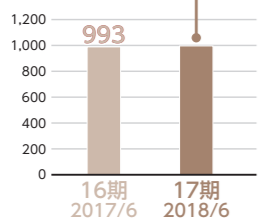
自動車内装材製造販売の中国子会社は、新規立ち上がり車の遅れもあり減収となりました。

この結果、インテリア産業資材事業は、売上高3,410百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益97百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

エレクトロニクス 事業

上半期売上高 単位:百万円

996百万円



売上高構成比
10.4%

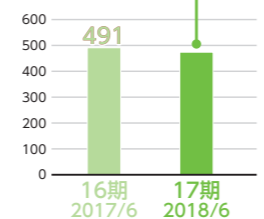
エレクトロニクス事業は、半導体・電子機器の製造および販売を行っており、電動工具向けのコントローラーや半導体の受注は好調でしたが、一方で家電向けの樹脂成型品の受注が不調でした。

この結果、売上高996百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益23百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

ファインケミカル 事業

上半期売上高 単位:百万円

474百万円



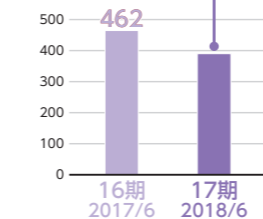
売上高構成比
5.0%

ファインケミカル事業は、ヘルスケア関連薬品、工業用薬品の製造および販売を行っており、医薬中間体の在庫調整と販売単価下落の影響を受けた一方、高付加価値の電子材料向けが堅調に推移し、売上高474百万円（前年同期比3.6%減）、営業利益65百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

不動産事業

上半期売上高 単位:百万円

388百万円



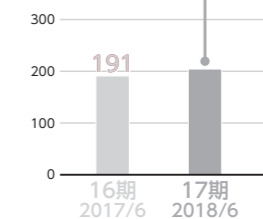
売上高構成比
4.1%

不動産事業は、郊外型ショッピングセンター・オフィスビル等の賃貸を行っております。主要ショッピングセンターの賃貸スキームの変更に伴い、売上高388百万円（前年同期比16.0%減）、営業利益232百万円（前年同期比16.4%減）となりました。

その他

上半期売上高 単位:百万円

206百万円



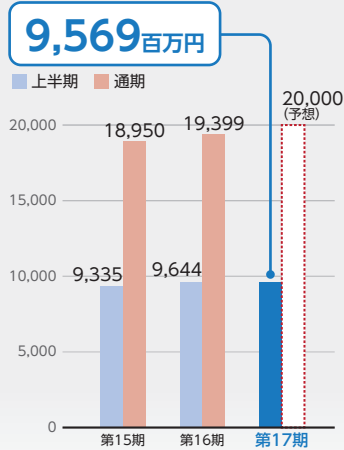
売上高構成比
2.1%

その他の事業は、自動車学校の運営、新規事業および中国における貿易業務などを行っております。

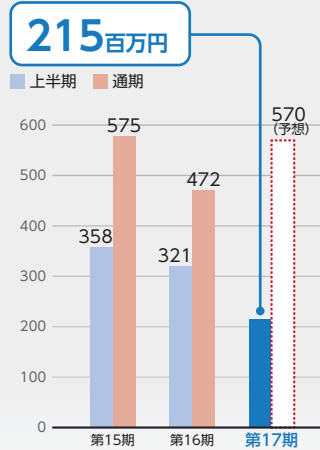
自動車教習事業は、前年並みの入校生を確保することができ、順調に推移しました。新規事業は、化粧品原料や健康食品を取り扱っており、前年を上回る売上となりましたが、化粧品開発費用等の経費増により減益となりました。中国子会社の販売も前年を上回りました。

この結果、その他の事業全体の売上高は206百万円（前年同期比7.8%増）、営業損失5百万円（前年同期は0百万円の営業損失）となりました。

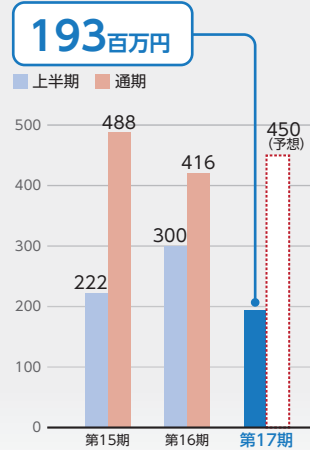
売上高 (百万円)



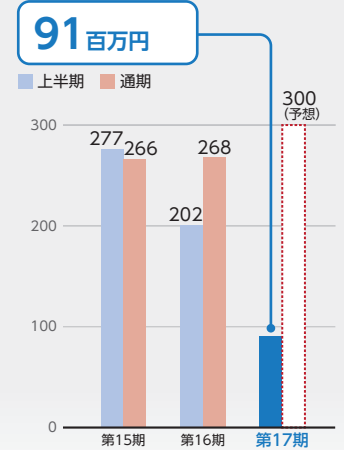
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する
四半期純利益 (百万円)



Topics 1

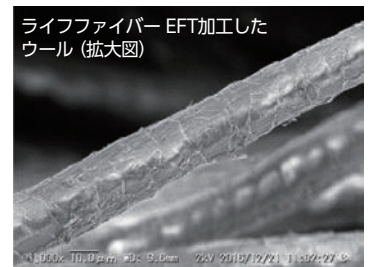
ウールのエコ・フレンドリー防縮 (家庭用洗濯機で洗える) 加工「ライフ・ファイバー EFT」

世界初の界面重合による、人と環境にやさしいウール防縮加工技術確立しました。
この「ライフ・ファイバー EFT」は塩素を大量に使用する従来型の防縮加工に対し、塩素を使わないエコ・フレンドリーな技術です。

ヨガウェア・ブランドONU

ONUは新開発防縮ウール「ライフ・ファイバー EFT」を全面的に使用し、世界初、日本発の新開発防縮加工ウールを広めるため今年4月に立上げました。企画～生産を全て国内で行い、日本のものづくりを世界へ発信していきます。

ONUの「自然を大切に自然と共に」というコンセプトの着想もエコ・フレンドリーな素材から生まれました。



www.onuofficial.com



Topics 2

Spinahl (スピナル) / 2018年6月販売開始



京都大学が発見した成分「MCA」を、大人の肌に必要なだけ配合。あなたの“よかった”を聞きたくて生まれた、研究室由来の化粧品、それが「スピナル」です。



「MCA」は、
肌が持つ本来の美しさを
引き出す役割をサポートします。

「MCA」は、肌が本来持つ能力を引き出す成分。
京都大学研究室にて発見され、いま化粧品成分として肌トラブルへの働きが大いに期待されています。
「スピナル」は、この「MCA」を、大人の肌のために必要な量、配合しています。

※MCA:カルボキシメチルフェニルアミノカルボキシプロピルホスホン酸メチル

株式会社トーア紡コーポレーション 新規事業部からドクターズコスメとして『Spinahl』の販売が開始されました。京都大学研究室にて発見された化粧品成分「MCA」を配合しており、シミ・くすみに効果が期待されます。

今後、対面販売を中心に拡販を目指します。

会社概要 (平成30年6月30日現在)

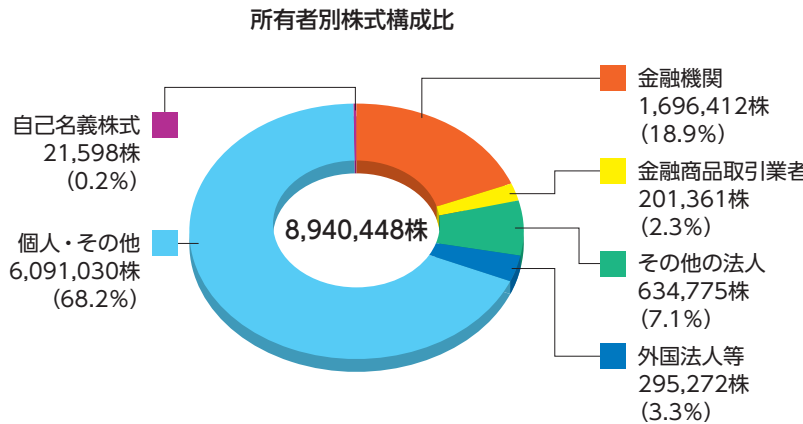
会社名	株式会社トーア紡コーポレーション
設立年月日	平成15年6月12日(創業 大正11年2月)
資本金	3,940,097,500円
主要な事業内容	アプライアンス向け部品、ファインケミカルの製造販売および不動産賃貸、各種繊維製品の製造加工販売を行う子会社の経営管理
事業所	本社 大阪市中央区城見一丁目2番27号 クリスタルタワー18階 東京支店 東京都中央区日本橋小伝馬町14番7号 アクサ小伝馬町ビル4階 大阪工場 大阪府泉大津市虫取町一丁目1番12号
従業員数	65名
ホームページ	URL http://www.toabo.co.jp/

役員 (平成30年6月30日現在)

代表取締役社長	長井 渡
取締役	西井 申明
取締役	山田 哲
社外取締役	坂下 清信
社外取締役	丸岡 健二
常勤監査役	川崎 隆行
社外監査役	高島 志郎
社外監査役	伊藤 久弥

株式の状況 (平成30年6月30日現在)

発行可能株式総数	14,300,000株
発行済株式総数	8,940,448株
株主数	6,377名



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催
基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法 公告掲載URL http://www.toabo.co.jp/ 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。

- 手続におけるご注意
- 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、株主様が口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に
基づき、より多くの人に見やすく
読みまちがえにくいデザインの文字を
採用しています。